

令和元年9月10日

公益財団法人ラグビーワールドカップ2019組織委員会

会長 御手洗富士夫殿

参議院議員 松沢成文

## 「ラグビーワールドカップ2019日本大会」 における受動喫煙対策に関する要望

いよいよ今月20日から、我が国で初めてのラグビーワールドカップが開催されます。同大会は、全国12会場で開催され、最大180万人の観戦者と40万人の訪日観光客が見込まれています。来年に控えた東京五輪と並ぶ国際的なメガスポーツイベントとして国民の期待と注目を集めていることは言うまでもありません。

しかし、来年の東京五輪が全ての競技会場および練習会場において大会期間中は加熱式タバコも含めて敷地内全面禁煙とする一方、ラグビーワールドカップでは試合会場を原則屋内禁煙とするのみで多くの屋外喫煙所の設置が認められる方針となっています。既に報道にもあるように、花園ラグビー場では、グラウンドを模した約220平方メートルの隔離されていないスペースに屋外喫煙所が設置され、そこに灰皿を選手に見立ててレイアウトするなど異常な演出までされている状況です（別紙参照）。また、3位決定戦と準々決勝2試合が開催される東京スタジアムでは、2箇所の観客用喫煙所と8箇所の関係者用喫煙所の計10箇所もの喫煙所が敷地内に設置される予定です（別紙参照）。

私は、本年5月の参議院文教科学委員会において、ラグビーワールドカップでは東京五輪と同様、会場敷地内も含めて、建物内、敷地内の禁煙方針を打ち出すべきだとの質問を行い、柴山大臣に対応を求めました。その際大臣からは、文部科学省として「主催者であるワールドラグビー及び運営を行う組織委員会において適切な受動喫煙防止対策が講じられるようしっかりと働きかけていきたい」との答弁をいただきましたが、残念ながら開催目前の現在に至ってもなお十分な対応がとられておりません。

2010年にWHOが示した「メガ・イベントをタバコフリーにするためのガイド」においては、オリンピック並びにサッカー及びラグビーのワールドカップといったメガスポーツイベントの施設内を禁煙にすることなどをイベント主催者や開催地政府に求めています。

そこで、あらためてここに、間もなく開催されるラグビーワールドカップの全12会場において、屋内および屋外の喫煙所を認めない敷地内全面禁煙を実現されることを強く要望します。

以 上